

芸閣

～図書館だより～

第7号
2018年11月
桐蔭図書館発行

芸閣...「うんかく」と読みます。
書庫、書齋という意味です。
(「芸」は書籍に挿む虫除けの香草)

よそお 山粧う

秋山が紅葉するようすを、山粧うといいます。また、春の山のさわやかな初々しさは、山笑う、夏の山の青々としてみずみずしいさまは、山^{したた}滴る、冬の山の枯れた寂しさは、山眠る。

これらの言葉は、郭^{かくき}熙という11世紀の中国、北宋時代の画家の言葉に由来しているそうです。季節ごとに変わる山の様子を、まるで生きているように表現していますね。

11/5(月)

生徒図書充実委員会

11月5日(月)に和歌山市民図書館で生徒図書充実委員会がありました。和歌山市内の高校9校、生徒35名が集まりました。前半部分では、本のポップの作り方や図書館経営の豆知識を学びました。また、どうやって利用者を増やしていけばいいのか、図書館には本の他にどんな資料が置かれていて、何を借りることができるのか等、高校生の疑問にも丁寧に答えていただき、とても充実した時間を送ることができました。

2年 釣上

生徒図書充実委員会で和歌山市民図書館の見学に参加しました。移民資料室では、移民としてアメリカに渡ったヘンリー杉本氏(和歌山中学校出身)の収容所のスケッチをはじめとした全国でもここにしかないような貴重な移民に関する資料を見せていただきました。この資料室には、他にも過去の新聞記事をフィルムにしたものもおいてあり、関東大震災の記事や真珠湾攻撃の記事もあるそうです。本を保存・管理している書庫では、二段構造の部分があったり、電動式書庫があったりと、コンパクトに本を収納する機能を知ることができました。普段から市民図書館を利用していますが、いつもは閲覧室の利用ばかりなので今回の見学はとてもわくわくしました。

1年 西村

お願い

『最高の引き寄せ』(井上裕之著)という本が間違っって他の人の貸出になっていて、実際に誰に貸し出したかわからないまま、返却もされていません。お心当たりの方は図書館まで連絡をお願いします。



(裏面に新着図書の紹介を載せています)



新着図書の紹介

日本の戯曲

『釈迦内枢唄』 水上勉 著 新日本出版社

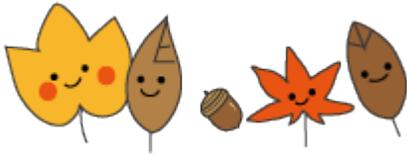
先日の講演会の話に出てきた作品です

情報

『教養としてのプログラミング的思考』

草野俊彦 著 SBクリエイティブ

『入門者のPython』 立山秀利 著 講談社



自然科学

『いきもの人生相談室』 小林百合子 著 山と溪谷社

『宇宙の「果て」にはなにがあるのか』 戸谷友則 著 講談社

『フォッサマグナ』 藤岡換太郎 著 講談社

外国の小説

『九マイルは遠すぎる』 ハリイ・ケメルマン 著 早川書房

『ウインブルドン』 ラッセル・ブラッドン 著 東京創元社

日本の小説

『オズの世界』 小森陽一 著 新潮社

『下町ロケット 3 ゴースト』 池井戸潤 著 小学館

『下町ロケット 4 ヤタガラス』 池井戸潤 著 小学館

『首折り男のための協奏曲』 伊坂幸太郎 著 新潮社

『夜の国のクーパー』 伊坂幸太郎 著 東京創元社

『散り椿』 葉室麟 著 文藝春秋

『むすびつき』 畠中恵 著 新潮社

『掟上今日子の乗車券』 西尾維新 著 講談社

『ドロシイ殺し』 小林泰三 著 東京創元社

『クララ殺し』 小林泰三 著 東京創元社

『思い出が消えないうちに』 川口俊和 著 サンマーク出版

『2.43 清陰高校男子バレー部 春高編』

壁井ユカコ 著 集英社

『失樂園のイヴ』 藤本ひとみ 著 講談社

『ブロードキャスト』 湊かなえ 著 KADOKAWA

『短劇』 坂木司 著 光文社

自然科学

『今日からモノ知りシリーズ』

『トコトンやさしい〜の本』

日本工業新聞社

『プリント配線板の本』 高木清 著

『地質の本』 藤原治 著

『トンネルの本』 土門剛 著

『微生物の本』 中島春紫 著

『IoTの本』 山崎弘郎 著

『ダムの本』 溝淵利明 著

『電気の本』 山崎耕造 著

『自動運転の本』

クライソン・トロンナムチャイ 著

『トヨタ式作業安全の本』 石川君雄 著

『宇宙線と素粒子の本』 山崎耕造 著

『燃料電池の本』 森田敬愛 著



イラスト：わんバグ